

「保健日誌×AI 分析」で夏休み明けの「行き渋り」を未然に防ぐ ～データに基づくメンタルヘルス早期発見「明日がもっと楽しみになる学校」へ～

主催	氷丘南小学校
日時	令和8年9月1日（火） 8：15—
場所	氷丘南小学校
内容	本校では「明日がもっと楽しみになる南小学校」の実現に向け、児童のメンタルヘルスケアに先端技術（AI）を導入いたしました。全国的に夏休み明け直後の「9月1日前後」は、子どもの精神的負担が最も高まり、行き渋りや自殺リスクが増大する時期とされています。本校ではこの課題に対し、「保健日誌」のデータをAIに分析させ、不登校の初期サインを事前にデータとして検出しました。8月下旬より各担任と情報を共有し、登校に向けた事前対策・個別フォローを開始いたします。 （背景）子どもや保護者の皆様の負担を軽減し、日常では体験できない多様な活動に触れる時間を確保するため、夏休みの宿題を「選択課題（少なくとも1つを選択して提出）」にする改革を2年前より実施しています。ただし、9月1日は全国的に子どもの自殺者数が最多となる深刻な時期であり、本校でも不安から行き渋りや、保護者の方に付き添われ泣きながら登校する児童が散見されるのが現状です。 教職員の目（主観・経験）だけでは見過ごされがちな児童の微細な変化を捉えるため、これまで蓄積された「保健日誌」をAIに学習させ、健康状態や来室傾向の変動パターンを分析・検証いたしました。 教員の経験や勘に頼るだけでなく、AIによる客観的データを組み合わせることで、子どもたちの小さなSOSを逃さず受け止める体制を整えました。このような『AIを活用した児童のメンタルヘルスケア』の具体事例が広く周知されることで、一人でも多くの行き渋りに悩む子どもたちが安心感を持って新学期を迎えられるきっかけになればと考え、記事提供をさせていただきます。
対象（参加者）	本校児童 約700人
定員	
参加費	
申込先・方法	
目的・背景 その他	不登校対策 SDGs 気になる児童 健全育成 子育て
市ホームページ	掲載しない
広報かこがわ	掲載しない